

映画「かば」いよいよ劇場へ



新春号
和良おこし
協議会発行
和良おこし
協議会

和良で先行試写会を開催

12月20日(日曜日)に和良町民センターにて、川本監督、キャスト、スタッフの方々を迎えて、映画「かば」の先行試写会を開催しました。



(川本監督、キャストの方々が上映前にご挨拶)

当初、今年秋の劇場公開を目指していましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、現在は来春の劇場公開に向けて準備を進めているそうです。

それに先立って、劇中に登場する主人公のひとり、浦先生のふるさとこの和良町で先行試写会を開催することになりました。浦先生のモデルとなったのは和

良町出身の蒲益男さん享年58歳。彼の葬儀には教え子だけでなく、世代や職業を問わず300人を超える人々が参列し、皆、故人を偲び涙を流したそうです。これほどまでに惜しまれる教師とは一体どのような人物だったのか。監督の川本さんは浦先生の教師としての原点である大阪、西成区の中学校で取材を進めるうちに「教育者と学ぶ手」、「大人と子ども」を超越した「人として対等」な人間関係が築かれていたことがはっきりと分かったそうです。その「人との距離

感」に驚き、映画製作に向かったそうです。取材を始めてから7年という製作期間を経て、今年ようやく本編が完成しました。途中で資金不足によって思うように製作ができない状態もありましたが、多くの方のご支援やクラウドファンディングなどを通してここまできました。

公開に向けて、編集作業や劇場公開に向けてのPR活動にまだまだ



(応援団長岩出さんより監督へ花束贈呈)

資金不足が否めない状況にあります。どうかみなさんのご支援をいただきたいと思えます。映画の内容はここではお伝えすることは出来ませんが、監督が話されたように「人と人のかかわり方」について、改めて考えさせ

てくれる内容になっております。時代背景は1980年代で、今の若い人たちには漫画の中の世界のように感じられるかもしれませんが、実際にそこにあつた出来事です。ストレートに発せられる言葉には



(終了後、監督陣が感謝の言葉をかける)

少し戸惑いを感じるかもわかりませんが、今の時代だからこそ、多くの方にみていただきたい内容です。この日は施設の人数制限もあつて、ご来場いただけなかった方もありましたので、またどこかで開催したいと思います。お越しいただいた皆さんには、多くの協力金をおいただき、映画の感想もお話しいただき、本当にありがとうございました。

ふるさと和良

の魅力づくり

12月15日(火曜日)は、和良地域協議会主催の地域づくり講演会が開催され、講師に郡上大和総合開発株式会社 代表取締役水野正文氏をお迎えしました。講演は「和良の地域資源を活かした活性化策を探る」と題して、前半は水野氏がこれまで取り組まれてこられた「古今伝授の里づくり」を基軸とした人と産業の育成について話されました。

大和町のまちおこしのはじまりは、昭和52年に発掘された「東氏館跡庭園」であり、古今伝授の行われた地という個性がまちおこしとしての資源となり、やがて「古今伝授の里」として誇りを持つるまちへと変わっていったそうです。また、若者や女性が好んで働く場所の創出によって暮らし続けられるまちへと変わってきたそうです。今回の講演にあたって水野氏は時間をかけて和良町内を調査策された

そうです。後半ではそのなかで感じられた和良の地域資源について話されました。いくつかをご紹介すると、郡上市の東の玄関としての位置、和良川公園オートキャンプ場、道の駅和良、和良の歴史、和良川とその生態系(和良鮎、オオサンショウウオ、蜆)のなどです。

近い将来、濃飛横断自動車道や中部縦貫自動車道の整備が進むと、これまでよりも交流の機会が増えますが、魅力ある地域とならなければ、ただの通過点となる恐れもあります。道の駅の整備も必要となって来るはずですが、それだけでなく地域住民が自信をもって誇れる「ふるさと和良」として、大きく変化していく社会情勢や環境の中においてもきちんと作り上げて行きたいものです。



(講演される水野氏)

新春放談



【中島】今回は、それぞれの立場で地域づくりに取り組まれておられる和良振興事務所の岩尾尚人所長と、和良おこし協議会の池戸祐芳会長に、令和2年の振り返りと令和3年、そしてこれからの和良の郷についてお伺いしたいと思います。ぜひぜひよろしくお願いいたします。

【池戸】令和2年の和良おこし協議会の活動を振り返りますと、「コロナ禍の影響で活動を制限された部分は、かなり多かったですね。ウィルスに対してイベント保険は効かないですし、打ち合わせの会議もオンライン環境へと様変わりしました。そんな中、感染対策を第一に徹底し、内容を見直しながら通年事業の「田んぼオーナー制度」や「和良鮎の釣り教室」、「はざご探検隊」そして、新規事業の「ばんどり探検隊」などの交流体験イベントをなんとかやりきることが出来たことは幸いでした。イベントを途切らさずに続けることが他地域の方々の交流を促進していくことだと実感していますので、事業を無事に遂行出来て安心しています。また今年度は移住相談の件数が例年よりかなり増えていることが特殊な傾向とみています。令和3年の移住者増に向けての良い風向きになればと思います。

【岩尾】令和2年は方言で言えば「これまでになく本当におおきく年」でした。「コロナ問題が様々なところに影響し、和良町で言えば、各地区の祭礼をはじめ、夏まつりや鮎まつりの中止。特に子どもたちにとっては、体育祭や文化祭、修

学旅行など記念に残る行事が出来なかったことを本当にかわいそうに思います。もちろん産業界経済にも大きな影響がありました。「コロナ禍では何をやるにしても制限され、これまでの普通の生活が有難いことだと改めて感じた年でもありました。」

【中島】新春放談に相応しい『初夢・和良の郷』をお聞かせください。まずは池戸会長から。

【池戸】令和2年末までに協議会を通じて和良町へ移住された方が70人(35世帯)となりました(その後転出された方もありますが)。そこで「初夢・和良の郷その二」100人(50世帯)の移住達成!。「初夢・和良の郷その二」協議会として集落づくり支援がたくさんできますように!。「初夢・和良の郷その三」マスクなしで会議や楽しいお酒が飲めますように!

【中島】なるほど、次に岩尾所長、よろしくお願います。

【岩尾】「コロナ禍ではなかなか目標を立てるのも難しい状況ではありますが、市としては総合計画後期基本計画が始まる年でもあり、和良の夢ビジョンの実現に向け取り組んでいきたいと思えます。個人的には太鼓の音をドーンと響かせ、ささやかながら地域の皆さんの元気の手助けになればと思っています。まずは、マスク無しで皆さんと気軽に話ができる生活に戻ってほしいと願っています。」

【中島】いろいろな活動を通じて人々が集い、笑顔と元気が連鎖していくような年にしたいと思いますね。本日はごうもありがとうございました。



(岩尾所長)

お悔み申し上げます

12月1日(火曜日)に加藤廣雄さんの訃報が届きました。加藤廣雄さんは広く地域に貢献されてこられ、和良川漁業協同組合の組合長としても4度の「和良鮎」日本一、地域団体商標登録、ブランド化に取り組まれるなど、和良川をこよなく愛し、和良鮎を大切にしてください。

和良おこし協議会の活動にも良き理解者としてご協力いただき、「鮎釣り教室」開催日には毎日講師としてご指導いただきました。初心者が一匹でも多く鮎が釣れるようにと、なかなか釣れない時にはずっと付きっきりでした。そして、釣り上げた時は少しドヤ顔で無邪気な笑顔を見せてくれました。小さな子どもさんが参加した時にも、根気よく付き合ってくださいました。後日届いた絵日記に「顔は怖かったけど、優しかったです。」と書かれてあり、一緒に大笑いしました。

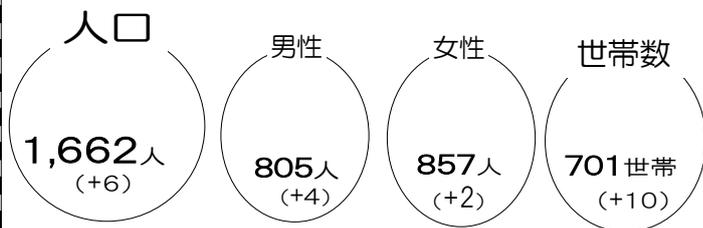
高知県で開催される「清流めぐり利き鮎会」にも何度か一緒にさせていただきます。3度目と4度目のグループ受賞を同じ会場で喜び合おうことができました。

会議の席や、ご相談にうかがった時など、厳しいご意見をいただきたくもありませんが、「まあ、やってみなよ。」と応援をしてくれました。まだまだ頼らせていただきたい事もいっぱいあったのにと、本当に残念です。廣雄さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



和良町の人口

令和3年12月1日現在



イベント掲示板

北海道大学 大学院 文学研究院 地域科学研究室 林塚也セミ

2020年度 卒業論文発表会

大学生が
卒論で語る
地域づくり
楽習会

とき: 令和3年1月17日(日) 13時30分より
※Zoomを使用したオンラインとサテライト会場(わらおこし)から観覧いただけます

郡上市市民協働センター サブセンター相談会

とき: 1月14日(木)10時~15時 ところ: わらおこし(和良町下洞554)

相談員: 上村英二センター長